

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

ミヨシ電子株式会社 広島事業所

(2) 事業所の所在地

広島県三次市東酒屋町306番地

(3) 業種

2814 集積回路製造業

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成29年度を基準年度とし、令和2年度から令和4年度までの3年間とする。

3 計画の基本的な方向

(ミヨシ電子環境方針より)

ミヨシ電子は地球環境保全への取組を経営の重要課題の一つとして事業経営に組入れ、事業活動、製品及びサービス等全てに適用し、また、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めると共に、汚染の予防、持続可能な資源の活用、気候変動の緩和、生物多様性への配慮等を考慮した活動を行って参ります。

1. 環境重点管理テーマとして以下の事項に取組みます。

- (1) 開発段階での環境配慮設計を強化推進する
- (2) 環境配慮部材を優先使用(グリーン調達)する
- (3) 廃棄物のゼロエミッションへ取組む
- (4) エネルギー使用量及び二酸化炭素排出量を削減する
- (5) 環境活動に係る情報を積極的に開示する

テーマ達成のため、環境目的・目標を設定し、具体的な活動の展開を図ります。

2. 環境関係法規、条例及びミヨシ電子が同意可能なその他の要求事項を順守します。
3. 関係官庁、地域住民、取引先と積極的なコミュニケーションに努め、また、地域社会との調和・貢献を図ります。
4. 環境方針は環境教育、広報活動等によりミヨシ電子全従業員に周知徹底します。
5. この環境方針は、社内外に公開します。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 29 年度	令和 1 年度
二酸化炭素	8,432	7,547

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 年度	令和 年度
二酸化炭素	排出無し	

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 年度	令和 年度
メタン	排出無し	
一酸化二窒素	排出無し	
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)	排出無し	

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成29年度)		削減目標		目標年度 (令和4年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	削減率 (b)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂					0
非エネルギー起源CO ₂					0
メタン					0
一酸化二窒素					0
その他 温室効果ガス					0
温室効果ガス 実排出量総計					0
温室効果ガス みなし排出量		-			0
目標設定の考え方	直近年は、売上高の落ち込み等により排出量は大きく下がった様にみられるが、2020年度以降、売上高の伸びに準じて排出量も増加傾向になる。省エネ法に基づく年1%の削減を目標値として排出量を目標値に定める。				

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

売上高原単位(t-co2/百万円)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成29年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和4年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	8,432	16,827	0.500	4.8	8,010	-	0.476
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算k l)	-	-	0.4575	5.0	-	-	0.4346
目標設定の考え方	省エネ法の基準に基づき、エネルギー消費量(電気+熱)を2017年度に比して、売上高原単位で2022年度に5%削減する。						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	CO2排出量の削減 (生産時のCO2削減)	動力設備の省エネ、製造現場の効率化及び省エネにより、平成29年度比売上高原単位を令和4年に5%削減する。	省エネ機器の導入 (コンプレッサ-の更新) 老朽化設備の更新 (空調機の更新) 設備メンテの計画的な実施 省エネ啓発活動の実施 デマンド管理の運用と制御
2			
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み (環境価値の活用等)

	種 類	合計量
1		
2		
3		

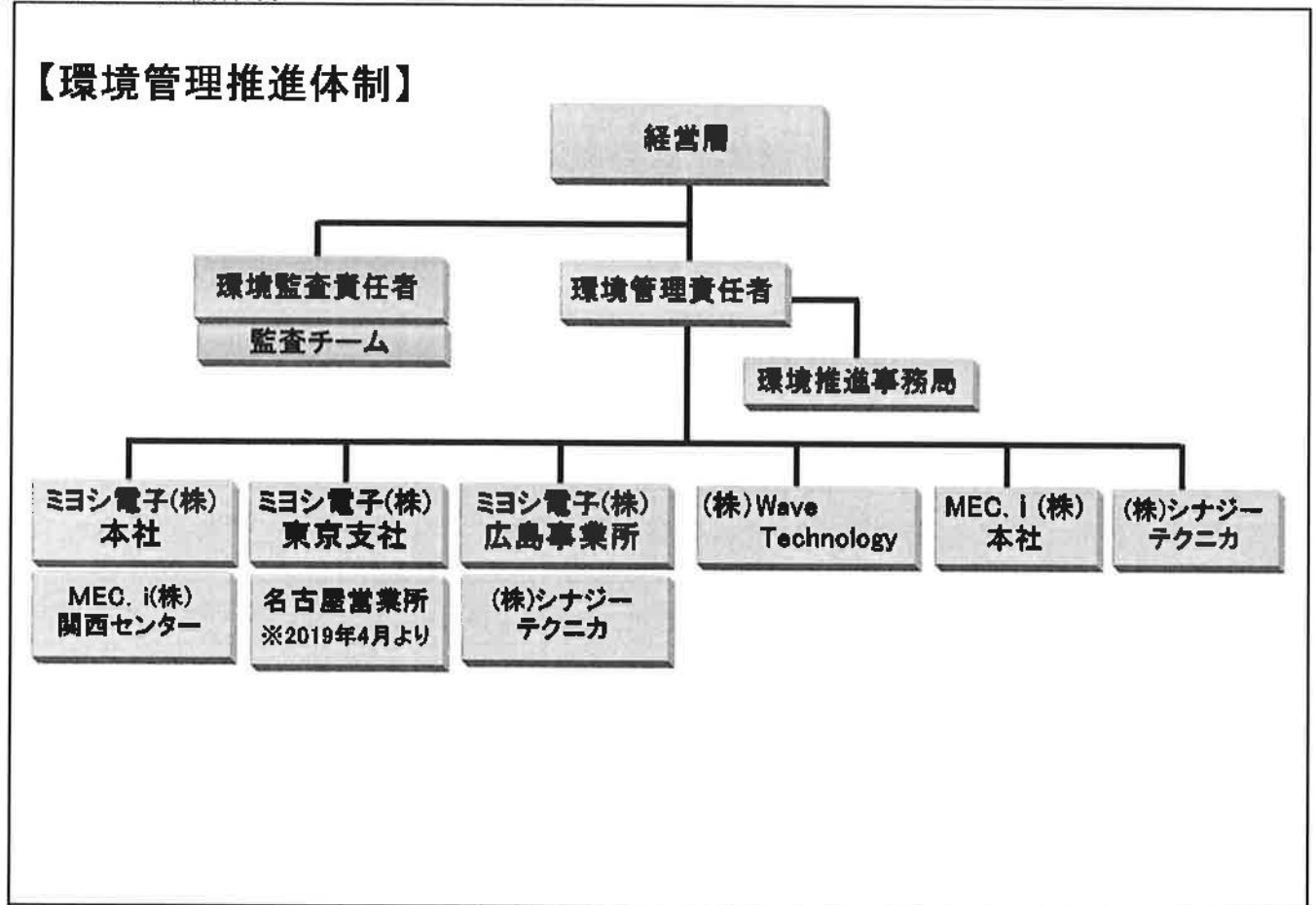
○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	D f E の取り組み推進	アセスメントによる製品の改善率を100%維持する。	アセスメントによる製品の改善
2	ステークホルダーへの積極的な情報提供		環境報告書の内容の充実、改良
3	地域貢献		1回/年の工業団地内清掃の計画・実施 地域清掃活動への参加
4	廃棄物総量の縮減	平成29年度売上高原単位の10.81 (k g / 百万円) を維持する。	廃棄物の受入抑制 利材化の推進 分別の徹底、3 R によるリサイクル率向上

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

- ・ 1回／年 環境マネジメントレビューを開催し、環境管理の取組状況を経営層へレビュー・経営層の評価を実施する。
- ・ 環境マネジメントレビューにて環境管理計画の見直しを実施する。
- ・ 四半期毎に環境管理計画のフォローを実施する。

(3) 計画書等の公表

当社の環境報告書で公表する。